

私はこの4月から育児休業から復帰しました。3年弱学校から離れていた不安もあり、復帰前に「頭の運動をしよう!」と力試しに英検の勉強を始めました。久しぶりの資格勉強は最初とても辛くて、知恵熱が出るほどでした。学生時代はもっと集中力があったのに...と気持ち折れかけたこともありました。しかし継続して学習していくうちに、「高校時代はこんな風に勉強していたな」と思い出して、子どもが昼寝している時間や夜遅くに問題集を開くのが楽しみになっていました。人生、志をたてるのに遅すぎることはないかもしれません。いくつになっても夢を追いかけることはできるし、目標を見つけて学び続ける姿勢は、年齢を問わず大切にすべきだと思います。しかし、今みなさんの目の前に広がっている可能性は、10年後20年後も同じようにあるわけではないかもしれません。私はみなさんの持っている可能性が本当にうらやましいです。

高校生活3年間は、自分の人生についてじっくり考え取り組むことができる大切な時間です。大変だな、しんどいなと感じることもあるでしょうが、今踏ん張って頑張ってくださいませよ。



## 小論文の勉強を頑張っていますか?

直木賞作家でお笑いタレントである又吉直樹さんは、本を読むことの効用について次のように話しています。「本は、必ず実在する誰かが書いてます。だから、その人の人生観が詰まってるので参考になるんです。例えば、ちょっとしんどいなってときに、あれ? このシチュエーション、あの本で読んだんだとか、あの本では登場人物がこういう選択をしたけど、自分の場合どうしようみたいなことを考えられるんです。また、『本を読む』という行為は、共感をコレクションしていきただけじゃなくて、自分とちがうタイプの人の行動も読んでいくことで、こういう考え方をする人もいるんだという経験がストックされます。さらに、本を読んでも、人間理解が豊かになります。本を読んで、そのとおりに生きて何の意味があるのか。それより自分で考えて行動すべきではないかという意見も聞きますが、ゼロから100までは先人も考えていて、それが本になっています。だから、その本を読んでおけば、その人は「101」から考えられるから、誰もたどり着いてないところへたどりつけるかもしれないのです。」皆さんの中には、小論文の勉強をしている人も多いと思いますが、小論文の課題文の最後に、注釈として出典名が掲載されています。時間があれば、出典に触れてほしいです。どんな作者が書いたのか、どんな考え方の人の人なのか、どんな時に書いたのかなどがわかれば、課題文の見方が変わるかもしれませんよ。



## キャリアセンター長 武貞先生より

6/12(水)みなと銀行の服部会長にご講演いただきました。「地域活性化における金融機関の役割」についてのお話でした。地域に密着した金融機関だからこぞできる地域の「しごとづくり」「ひとづくり」「まちづくり」「未来サポート」「モノづくり」の多様な取り組みを教えてくださいました。本校3年生が大学受験の出願時に書く志望理由書で圧倒的に多いのが「地域活性化における現在の課題を解決する方法を学ぶために大学へ行く」という内容です。服部会長のお話はそういう人たちにはとても響いたと思います。学校のいろんな行事は、将来の自分の姿を考えるきっかけになります。「自分を変えるきっかけになるかも!?!」という意識をもって、行事にしっかりと主体的に参加してください。今はコロナにより様々なことが変化した環境ですから、金融機関の役割も変わっています。他にも毎日気づかないけれど変わっていることが多くあります。自分自身も自然に変わっています。変わることを恐れず、前へ進んでいきたいですね。

## 進路に関する行事 6・7月中旬まで

- 6月 就職エントリーシートの提出(3年)  
求人票の見方などの説明(3年)  
インターンシップ説明会(2年)
- 7月 求人受付開始  
求人発表・就職説明会(3年)  
応募前職場見学会(3年)  
進学説明会(3年)  
面接指導・ディスカッション指導(3年)



## 進路ガイダンスがありました(2年生)~ホテル日航にて~



## 特色ある教育活動(進路学習・防災教育・その他)



## 姫路市役所の方と座談会(公務員)



## 卒業生を囲む会がありました(3年生)

卒業生が来てくれて、楽しく会が開かれました。誠意を込めて説明してくれ大変有意義な時間を過ごすことができました。



## 編集後記

先日、近所の公園に行ってブランコをこぎました。ブランコってこんなに気持ち良かったんかなと思うくらい、風を感じてリフレッシュできました。忘れていた遊び心をよみがえらせてくれたし、また、空を見ながらこいでみると鳥の気分を味わえました。ところで、ブランコという名前の由来にも諸説あり、ブランと下がっているからという柳田國男の説が有力ですが、別の説ではポルトガル語のBALANCOからきたともいわれています。「balanço(ポルトガル読みはバランソ。揺れを表す)」が語源だといわれています。現在のような遊具が日本に入ってきたのは、幕末から明治初期にかけてのことです。明治19年(1886年)になると、尋常小学校では遊戯と軽体操、高等小学校では兵式体操が必須科目となり、棒高跳び、木馬、平行棒、ブランコ、吊り輪、回転塔、鉄棒などの器械体操に取り組んでいたそうです。さて、ブランコを目をつぶってこいでみると、音と揺れに集中することができて、だんだん落ち着いてくるから本当に不思議ですね。皆さん、久しぶりにブランコをこいでみませんか。はて、皆さんが最後にブランコをこいだのはいつですか。